

はつかいち 甘日市のおいしい食べ物を給食でつかってるよ！

たべもの新聞

Vol.32 かぼちゃ

平成30年9月4日 廿日市学校給食センター

かぼちゃの栽培の様子を紹介します。

—大野の吉岡さん—

廿日市学校給食センターでは9月に大野・佐伯で育てられたかぼちゃを使います。今回はそのかぼちゃの生産者の吉岡さんの畑を取材させていただきました。

①種まき (4月16日)



ポットの中に腐葉土、肥料の入った土を入れ、水をまいた後、種をまきます。



再び、土をかぶせて、たっぷりと水をまきます。



虫の侵入を防ぐために、防虫ネットをします。

かぼちゃの豆知識

かぼちゃにはいろいろな種類がありますが、大きく分けると、次の3つのタイプがあります。

日本かぼちゃ



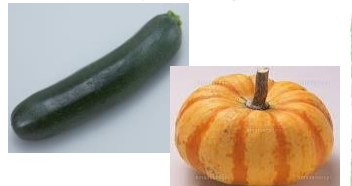
縦に溝が入っていて、デコボコしている。甘みは控えめで、ねっとりとしている。

西洋かぼちゃ



表面に溝がなく、なめらかな形をしている。甘みが強く、ホクホクしている。

ペポかぼちゃ



色や形がおもしろいかぼちゃ。ズッキーニ、そうめんうり、ハロウィンのかぼちゃなど。

②発芽・成長 (5月1日)



種を植えて2週間後には、元気よく、本葉が出てきました。

③植えつけ (5月16日)



本葉が4~5枚出てきたら、ポットから畑に植えつけます。



1mくらいの間隔で、植えつけた後、たっぷりと水をまきます。かぼちゃに大きくなる力を与えるために収穫までに追肥(肥料を与えること)を2回します。

④花が咲く (6月中旬)



黄色の花が咲きました。花のすぐ下にふくらみがあるのが「め花」、ないのが「お花」です。お花が10個に対して、め花は1個くらいの割合でしか咲かないそうです。花が咲いた頃、2回目の追肥をします。

追肥②

⑤実がなる・収穫 (7月下旬)



お花(おしべ)の花粉がハチなどによって、め花(めしべ)についたら実がなります。皮が濃い緑色になり、つるが緑色→黄色→茶色になってきたら収穫の時期だそうです。

吉岡さんは家族で仲良く野菜作りをしておられ、かぼちゃの他にもなす・きゅうり・オクラにがうりなど、いろいろな野菜を栽培されています。今年の6月には玉ねぎ・じゃがいもも給食センターに届けてくださいました。今年は特に猛暑と日照り続きによる水不足で、かぼちゃの育ちが悪く苦労されたそうです。秋には今度はさつまいもが収穫されます。ご家族みんなで明るく楽しく作業されている姿がとても印象的な吉岡さんファミリーでした。

9月13日(木)の給食の「パンフキンスーフ」に、吉岡さんが育てられたかぼちゃが登場します★



吉岡 孝幸さん・健太さん・真智恵さん



■

■

▶ ● ● ●

■

▶ ● ● ●

